

バイオ医薬品開発をより速く： スマートなスクリーニング、柔軟な細胞株開発、 4か月で実現するExpressCMC™

9月23日（火）15:00-17:00（GMT+9）

📅 今すぐ登録



sdAb（単ドメイン抗体）はラクダ科動物由来のユニーク抗体であり、特に多特異性抗体の構築ブロックとして、創薬分野において広く活用されています。

第1部では、sdAbのリード候補創出に向けた**ファージディスプレイ技術とシングルB細胞技術**を取り上げ、それぞれの特徴を比較・検証します。

ProBioでは、CMC開発の加速するために独自の**ExpressCMC™**を導入しました。この革新的な細胞株構築プラットフォームを用いることで、DNAから毒性試験用原薬（tox batch）までの期間を**業界最速水準の4か月**で実現します。

第2部では、このスピードをどのように実現しているのか、そのプロセスを明らかにします。

15:00-15:45

ファージライブラリと単一B細胞スクリーニング技術による統合的なsdAb探索

Derek Chen, Sr. Director, Antibody Drug Discovery Dept., ProBio

- sdAbを基盤とする治療用抗体の歴史と最新動向の概要
- ファージディスプレイおよびシングルB細胞を用いたsdAb創薬の検討
- ファージディスプレイおよびシングルB細胞によるsdAb探索のケーススタディ



Derek Chen
Sr. Director, Antibody Drug
Discovery Dept., ProBio

15:45-17:00

次世代細胞株プラットフォームによる抗体向けExpressCMC™の実現

Ying Li, Director of Antibody PD Dept., ProBio

- ExpressCMC™の概要：開発タイムラインを加速するための戦略
- 次世代細胞株構築プラットフォームにおけるイノベーション



Ying Li
Director of Antibody PD Dept.,
ProBio